

# I 校内研修計画

## 1 研究主題

### 子どもと共に創る主体的・対話的で深い学びのある道德授業 ～教師の「発問の工夫」と子どもの「思考の可視化」を通して～

## 2 研究主題について

### (1) 子どもと共に創る主体的・対話的で深い学びのある道德授業の実践

昨年度は、「子どもと共に創る主体的・対話的な学びのある授業」を研究主題として研究を進めてきた。この前提として本校においては、規範意識を高めること、ルールを守ること等「学びの基盤」づくりが必要であると考えた。そこで、全教職員が基本的なことを改めて確認し、共通理解した上でチームとして取り組むことにより、「学びの基盤」を固めることができた。しかし、「深い学び」につながる「主体的・対話的な学び」という点では、課題が残った。そこで、今年度の研究主題を「子どもと共に創る主体的・対話的で深い学びのある道德授業」として取り組み、次の3点を中心に研究を進めていく。

#### ① 「問題意識をもつ」導入の工夫

授業の導入においては、主題や教材の内容に対する興味関心を持たせることが大切であるが、本時の主題に対する問題意識を持たせて授業に臨むことが重要である。道德科で扱う問題とは、道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活の諸事象とは異なっている。このことを踏まえて、問題意識を持つことによって子どもは意欲的に道徳的価値の意義について考え、主体的に話し合うことができるようになると思う。

#### ② 「自分との関わりで考える」・「多面的・多角的に考える」ための「発問の工夫」と「思考の可視化」

「自分との関わりで考える」とは、自分と向き合い、これまでの経験やそのときの感じ方、考え方を照らし合わせながら、考えを深めることである。そのためには、「思考の可視化」を活用し、児童が自分との関わりで考えを深めることができるようにする。

道德授業の目的は、授業終末において、道徳的諸価値の意義及びその大切さを理解することであり、子どもが友達と対話したり協働したりしながら、多様な感じ方や考え方に接することで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。そこで、自分自身の考えのプロセスを客観視したり、自分や友達の考えの良さを知ったりするために、子どもの考えが表れる「思考の可視化」を活用する。そのことで、自分の考えの理由や自己の課題に気付くこともできる。また、教師の一方的な計画板書ではなく、主題を意識しながら児童の発言を取り入れた構造的な板書を作成し、価値理解の助けとなる「共に創っていく板書」の工夫も大切である。そのためには、「発問の工夫」を行うことが大切であり、授業のねらいに深く関わる中心発問やそれを生かすためにその前後の発問を工夫することが大切である。

#### ③ 「自己の生き方について考えを深める」終末の工夫

道德科の授業では、子どもが問題意識をもち、自己を見つめ、道徳的価値を自分との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えることが重要である。授業終末場面においては、なぜそのような考えに至ったのかという理由を含めて、これまでの自分の生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望を持ったりすることができるような時間を確保して取り組む。さらに、授業後の板書を学級内に掲示するなど、授業で学んだことを学級内で共有できるような工夫をしていく。

## (2) 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の指導の工夫

学校における道德教育は、特別の教科である道德科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである。そこで、昨年度の研究を生かして、学校全体での道德教育の工夫について、次の3点を中心に進めていく。

### ① 「学びの基盤」と道德教育の関連

昨年度は、「学びの基盤」作りのために、生徒指導面における「掃除指導、廊下歩行、あいさつ」など、学習指導面における「話すこと、聞くこと、チャイム着席、姿勢」などを中心に取り組み、一定以上の成果が認められた。そこで、今年度は、道德的価値を意識しながら重点事項を踏まえて指導することにより、「学びの基盤」作りと道德教育の効果の両面から一層高められるように取り組む。

### ② 各教科等と道德教育の関連

各教科等の目標や内容には、子どもの道德性を養うことに関わりの深い事柄が含まれている。各教科等において道德教育を適切に行うためには、まずそれぞれの特質に応じて道德の内容に関わる道德的価値を意識しながら指導する。そのためには、全体計画や別葉等の指導計画を、全教師が目に見えやすいところに掲示しておくなど工夫し、全教育活動を通じて行う道德教育の指導の意識をつなぐことを重点的に取り組む。

### ③ 道德教育と委員会活動の関連

学校教育活動全体が子どもの主体的活動のもとで行われるためには、委員会活動の活性化が重要である。委員会活動は、教師の適切な指導の下に、児童の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにする。活動主体が高学年中心になるが、学校全体に関わるため、委員会活動の内容を道德的内容項目と関連させることにより、道德教育がより日常化されると考えている。

## (3) 持続可能な指導体制の工夫

教師は、限られた時間の中で、日々の業務を遂行しているため、時間を最も効果的に分配し、可能な限り短い時間で効率的に指導できる体制を工夫していく。例えば、効果的な資料や板書で使った掲示物等を蓄積・共有していくことが考えられる。また、道德教育は、日々の積み重ねの指導により、子どもに定着していくものである。日々の業務の中で達成感や充実感が持てるような声かけや体制づくりを意識していく中で、子どもと共に創る授業づくりをしていく。

## 3 研究の視点

### (1) 「問題意識をもつ」導入の工夫

- ・ 道德的価値に根差した問いを子どもと共に創るための工夫
- ・ 子どもが自分事として考えるための、効果的な導入の在り方

### (2) 「自分との関わりで考える」・「多面的・多角的に考える」ための「発問の工夫」と「思考の可視化」

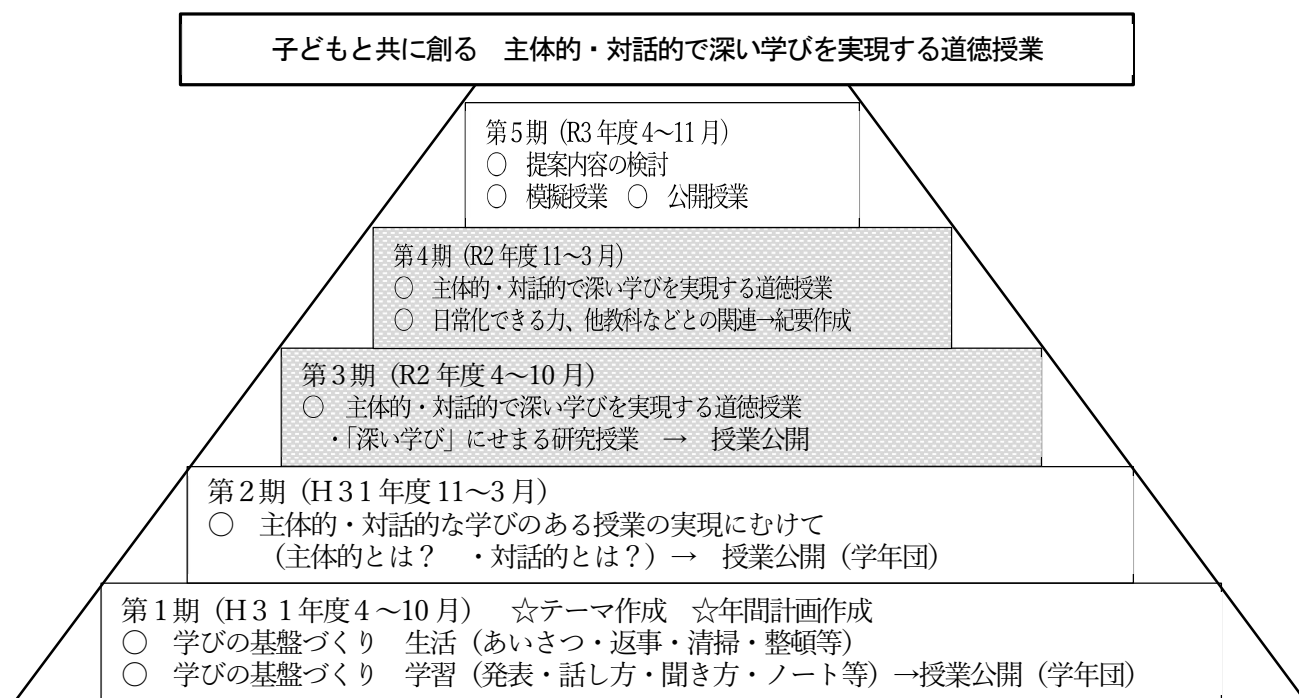
- ・ 授業のねらいに深く関わる中心発問やその前後の発問の工夫
- ・ 心の色や心のスケーリングなどの「思考の可視化」を活用した自分の考えの持たせ方
- ・ 自分の考えと友達の考えをつなぐ活動や場の工夫について

### (3) 「自己の生き方について考えを深める」終末の工夫

- ・ 深い学びにつながる効果的な振り返りの持ち方
- ・ 深い学びにつながる振り返りの共有の仕方について

#### 4 研修の進め方

今年度は、「深い学び」が1つの鍵となるため、授業導入から終末までの全ての授業場面を区切って研究の視点として挙げている。そこで、第3期終了後の振り返りから、成果と課題を精選して、より焦点化した研修となるようにしていく。さらに、学校全体での取り組み、持続可能な指導体制の工夫についても同様である。



#### 5 道徳的内容項目

道徳科の授業の中で学習した内容については、板書や道徳的内容項目の掲示をするなど、日常化しやすいように工夫して取り組んでいく。

|                                                                                      |                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 道徳の4つの視点                                                                             |                                                |
| A 主として自分自身に関すること                                                                     |                                                |
| 低・中                                                                                  | 善悪の判断、自律、自由と責任、正直、誠実、節度、節制、個性の伸長、希望と勇気、努力と強い意志 |
| 高                                                                                    | 低・中の項目 + 真理の探究                                 |
| B 主として人との関わりに関すること                                                                   |                                                |
| 低                                                                                    | 親切、思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼                            |
| 中・高                                                                                  | 低の項目 + 相互理解、寛容                                 |
| C 主として集団や社会との関わりに関すること                                                               |                                                |
| 規則の尊重、公正、公平、社会主義、勤労、公共の精神、家族愛、家庭生活の充実、よりよい学校生活、集団生活の充実、伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度、国際理解、国際親善 |                                                |
| D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること                                                         |                                                |
| 低・中                                                                                  | 生命の尊さ、自然愛護、感動、畏敬の念                             |
| 高                                                                                    | 低・中の項目 + よりよく生きる喜び                             |